

東京都市大学グループの祖  
五島慶太翁生誕130年記念誌

# 熱誠

学校法人 五島育英会

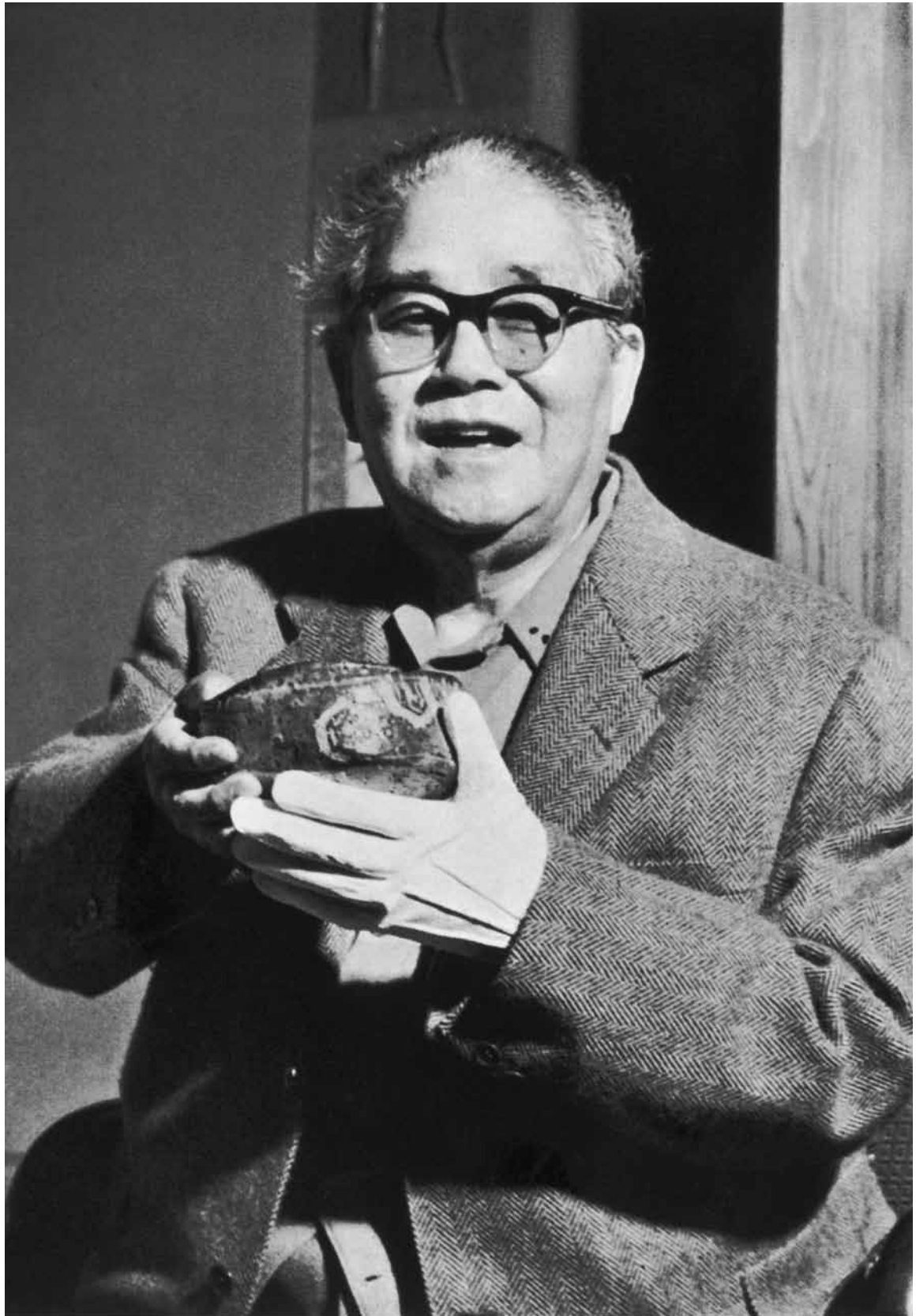
## 「熱誠」― 慶太翁からのメッセージ

---

人の成功と失敗のわかれ目は第一に健康である。次には、熱と誠である。体力があって熱と誠とがあるならば、必ず成功する。禅語に「随処に主となる」という語があるが、貴賤を問わず、いつ如何なるときでも自ら主となるように努めなければならぬ。その時、その折において必ず第一人者となるのには、それだけの確信が持てるように他人よりも余計に勉強しなければならない。それには敵弾の十字火中にあるような滅私奉公的の熱誠、あるいは神仏を礼拝する時のような誠実が無ければ出来ない。自分の現在従事しておる仕事について、常に第一人者となる様に努力しておるならば個人的収入も、社会的地位も、すべて必ず向上して行くことは間違いない。この体力と熱誠さえあれば不可能な事はないということを、私は自らの経験上確信している。

---

出典：清和（昭和12年7月号）「我が半生の体験を語る」本誌36頁  
五島育英会報「巻頭言」（昭和33年12月号）「私の人生観」本誌352頁  
表紙題字：書道家佐野梨山先生（毎日書道展審査員）の書



1958 (昭和33) 年12月 自宅にて (76才)



# 序

五島慶太翁が描いた  
夢の舞台の幕が上がった



## 東京都市大学グループの誕生記念コンサート

2009（平成21）年3月30日、渋谷Bunkamuraオーチャードホールにおいて東京都市大学グループの誕生を祝う記念コンサートが開催された。

コンサートは、現在世界的に活躍されている本名徹次氏の指揮、東京フィルハーモニー交響楽団と80人の二期会合唱団の構成で、第1部では東京都市大学グループ学園歌「夢に翼を」（岩代浩一作詞作曲（岩代太郎編曲））が披露され、第2部はベートーヴェンの交響曲第九番（合唱付き）が、大倉由紀枝（ソプラノ）森山京子（メゾソプラノ）村上敏明（テノール）福島明也（バリトン）といった当代一流のソリストによって演奏された。

会場には五島育英会・東京都市大学グループの教

職員をはじめとして東急グループの関係者のほか、1万通を超える一般公募の中から抽選で選ばれた方々を含む1,800名が演奏を堪能し、拍手が鳴りやまないほどの感動が会場を満ち、東京都市大学グループの誕生を祝うにふさわしい厳かな式典となった。



2009年3月30日に行われた東京都市大学グループ誕生記念式典



山口理事長から中村学長に新校旗を授与



挨拶される中村英夫東京都市大学学長、山口裕啓五島育英会理事長、上條清文東急グループ代表

## 五島育英会発足以来の慶太翁の構想の実現

2009(平成21)年4月1日東京都市大学グループは正式に発足したが、その誕生の経過を語るうえで、何よりも思いを致さなければならないのは、その礎を築いた五島慶太翁の総合大学化の夢と実現への足跡である。この都市大グループが誕生した2009年は、奇しくも慶太翁没後50年の節目の年であった。

東京都市大学は、武蔵工業大学と東横学園女子短期大学との統合によって新たに総合大学として出発したが、その構想は既に1954(昭和29)年当時、東急電鉄の会長であった五島慶太翁が自ら創設した東横学園に加えて武蔵工業大学も経営することとなり、両大学を経営する学校法人五島育英会を創立した時点で発表されている。

1954(昭和29)年当時の武蔵工業大学は、校舎はすべて木造で老朽化し雨漏りの教室で傘をさしての授業、教職員の給料も遅配するなど倒産寸前の状

態にあった。創立者であった西村有作の懇願を受けてその経営を引受けた慶太翁は「将来慶應、早稲田に匹敵し得る総合大学になる日も遠くないと確信している」との構想を打ち出し、直ちに校舎をすべて鉄筋コンクリート校舎に改める10ヵ年計画を作成した。また、東京工業大学・大阪大学の学長を歴任した八木秀次を武蔵工業大学の学長に迎えるなど教授陣容を強化し、当時国内の大学では3基目となる原子力研究所の設置をはじめ設備の充実などに当時の東急グループの総帥としてその資金と人材を注ぎ込み、驚異的なスピードで大学の校容を一新することに力を尽くした。慶太翁は残念ながらその5年後の1959(昭和34)年に他界されたが、5年間で示された構想は、後継者五島昇理事長によって東急グループの教育事業として強力に支援されて今日の東京都市大学グループ各校の発展の礎となった。

## 東京都市大学グループが順調に発展

大学とすべての設置校が校名に「東京都市大学」を冠し、また入学式・卒業式などでグループ学園歌「夢に翼を」が演奏され合唱される中で、すべての教職員に東京都市大学グループの意識共有が確実に醸成されつつある。

中でも2011(平成23)年の夏に「東京都市大学塩尻高等学校硬式野球部」が甲子園に初出場した際には、グループを挙げた大応援団が甲子園のアルプススタンドを埋め、また同高校の男子サッカー部、女子バレーボール部、空手道部が長野県を制し全国大会に出場した際にもグループ各校からの応援団が「都市大がんばれ」を連呼するなど学生や父兄と共に教職員が東京都市大学グループに所属していることに喜びと誇りを共有した。

校容の充実に関しては、東京都市大学グループ発足後も順次各学校の校舎新築等、学生生徒の教育環境を整備充実するとともに、高大連携を深めるべく付属3高校生の東京都市大学における受講による単位認定制度、あるいは「付属進学制度(付属高校か

ら東京都市大学への推薦制度)」を構築するなど、大学と小学校、幼稚園の交流を含めた学校間連携も着々と進められている。

東京都市大学ではまた、大学の知的資源を地域社会に還元する活動にも力を入れている。「渋谷コロキウム」は東急沿線地域に住む方々を対象にした東京都市大学の公開講座として定着した。

また東京都市大学の今後を展望するにあたって東急グループとの連携強化は大きなテーマである。東急グループの持つ様々な経営資源を有効に活用することは他校が真似のできない独自性を生み、差別化を可能とする。

東京都市大学は困難の都度慶太翁の強力な指導の下に東急グループの支援を受けてきたが、現在も節々にあたって東急グループから寄せられる支援は大きい。東急グループの一員でもある私たちはそれに応えて東京都市大学グループが掲げる教育理念「健全な精神と豊かな教養を培い未来を見つめた人材の育成」に総力を挙げて取り組む必要がある。



## 慶太翁の教育哲学のルーツを探究する



長野県小県郡青木村に今も現存する五島慶太翁の生家



松本中学時代の五島慶太翁

ところで早稲田の大隈重信、慶應の福沢諭吉、同志社の新島襄など、歴史ある大学は創設者について学内外に積極的に広報されているが、東京都市大学にはその祖である五島慶太翁に関しては、これまで広く伝えられていない。世に五島慶太伝は数多くあるがその殆んどは事業家としての伝記であり、鉄道事業、地域開発、企業合併で事業を拡大した人生とドラマに焦点があてられている。しかし、教育事業に携わった五島慶太翁の業績もまた素晴らしくドラマチックである。

例えば慶太翁が理事長就任後、武蔵工大の理事会[1954(昭和29)年12月]に初出席した際、教室不足に対する校舎増築とその資金調達の議題に関して慶太翁と教授陣との間で次のようなやりとりがあった。

\*\*\*\*\*

**蔵田教授**「鉄筋平屋3教室の建築費300万円を理事長の保証で銀行から借りてほしい」

**慶太翁**「僅か300万円のために私に保証人になれるのか？ 0が1つ足りないのではないのか？ 3,000万円なら納得できる。それに3教室増築では当座の間に合せてしかない。3,000万円で鉄筋コンクリート3階建てにしようではないか」

**蔵田教授**「鉄筋3階建ては願ってもない話だが、教室は来年4月に必要で今からの計画では間に合わない

いし3,000万円の負担は学校にとって相当な重荷になる」

**慶太翁**「建設費は私が責任をもつので先生方は心配しなくてよい。設計施工が間に合わないなら東急でやる」

**蔵田教授**「武蔵工大の名折れになるから設計は正月返上で間に合わせる」

**慶太翁**「蔵田さん、よく引き受けてくれた。それでは設計は1月15日までをお願いする。施工は私が4月末までに竣工するよう手配する」

\*\*\*\*\*

まさに慶太翁の面目躍如。ダイナミックで緻密な展望、ユーモアと優しさが表れたやりとりといえよう。

五島慶太翁は今から130年前の1882(明治15)年長野県小県郡青木村に生まれた。中学卒業後は母校の青木村小学校の代用教員をしながら勉学に励み東京高等師範学校を出て三重県立四日市商業学校の英語教師になるなど、社会への第一歩は教育者としての道であった。その後一念発起して東京帝大に入り、官僚を9年勤めた後、鉄道事業の道に進む。鉄道事業にあたっては沿線に学校を誘致し文教都市として発展させたのが慶太翁の特徴で、今も東急の沿線には学校が多い。後に経営を引受けることになる

武蔵工業大学との間にも少なからぬ縁があった。同大学の前身校武蔵高等工科学校が狭い仮校舎で難儀をしていた際、慶太翁（当時目蒲電鉄の専務）が大岡山に5,000㎡（1500坪）の土地を斡旋した。その後玉川等々力町1丁目（現玉堤）に移転した際も33,000㎡（1万坪）の土地を目黒蒲田電鉄株式会社社長五島慶太の格別の好意により、同電鉄が地主から借りて学校が又借りするという形をとるなどの便宜を図っている。当時の学校の資産状態では地主が怖がって土地を貸さなかったからである。1954（昭和29）年には経営危機に瀕していた武蔵工大の西村有作理事長が後事を託するにふさわしい人として慶太翁を選んだのはそうした人柄に惹かれたからでもあった。

東京急行電鉄を中核企業とし、交通、不動産、リテール、レジャーサービス、ホテル、建設、そして文化事業などを多角的に経営する東急グループを一代で日本有数の企業集団に育て上げた五島慶太翁が晩年に最も力を注いだのが、東横学園と武蔵工業大学をそれぞれ育て将来合併し日本有数の総合大学を作ることであった。

慶太翁は途上で他界されたが、その後を継いだ学校法人五島育英会の理事長や両学園の学長他教職員 の努力、そして東急グループの支援などによって教育陣容の強化、敷地や校舎設備など教育環境の充実、学部・学科の増設が図られ2009（平成21）年4月1日、ついに東京都市大学という総合大学を実現したのである。

## 生誕130年を記念して出版

2012（平成24）年4月18日、学校法人五島育英会初代理事長である五島慶太翁の生誕130年目に当たるこの日、東京都世田谷区九品仏の浄真寺にある慶太翁の墓前にて「東京都市大学グループの祖五島慶太翁へのグループ発展のご報告」を行う墓参が行われた。

都市大グループの誕生以来4年目の現状を報告し、各校は募集人員を充足するなど順調に成長を遂げつつあるが、高校の進学又大学の就職状況など教育成果や実績など真価を問われるのはこれからであり、各学校は総点検の上更なる進化・前進を図り長期計画に取り組むことを墓前に誓うものであった。

東京都市大学グループに籍を置くものとしては、その祖である五島慶太翁が教育事業に注いだ情熱、すなわち、国の繁栄のための人の重要性・教育の大切さ、産業振興のための快適な生活環境の整備、そして固有の文化の伝承といった一連の哲学・思想に学ぶことが重要と思われるが、現在、慶太翁のそれらの記録が整理されていない為、墓参を記念して五島育英会法人本部では慶太翁の業績を可能な限り発掘し編纂することとした。

今回の編纂目的が当初から慶太翁の教育業績を中心としたため、五島育英会史とは性格を異にしている。それは次の編纂機会に託し、あくまでこの記録は五島慶太翁の教育概史としてお読みいただき、東京都市大学グループの祖を身近に知っていただければ幸いである。



墓前の安達理事長  
五島慶太翁生誕130年記念墓参  
(九品仏浄真寺2012年4月18日)



浄真寺開山堂前の学校園長、学部長、研究科長、役員幹部等



五島慶太翁の胸像を囲んで（東京都市大学世田谷キャンパス五島記念館中庭）  
 前列左から／國分専務理事、安達理事長、中村総長（都市大）、広江常務理事  
 後列左から／重永校長（付属小）、原田校長（等々力中高）、小野校長（付属中高）、赤羽校長（塩尻高）、波田野園長（二子幼）、白石校長（東自校）

# 東京都市大学グループの校容

東京都市大学 世田谷キャンパス



アリーナ（体育館）での入学式 収容人数約2700名のアリーナは、体育の授業や課外活動で用いられるほか、入学式や学位授与式など大規模なセレモニーの会場として利用されている。



五島記念館（3号館） 東京都市大学世田谷キャンパスの中心となる施設であり、1994年3月に竣工。パルテノン神殿を連想させる重厚なもので、五島慶太初代理事長等の偉業を称え命名。



新1号館 学生支援センター、教室、研究室、事務管理部門などを備える環境配慮型の複合施設。写真は第1期分、第2期竣工は右側に連結し2013年12月完成。



SAKURA CENTER#14（14号館） 創立75周年記念事業の一環として、教育環境の改善充実を図る目的で2004年3月に竣工。アリーナ（体育館）のほか、学生食堂、カフェテリア、トレーニングルーム、武道場などさまざまな機能を併せ持つ複合施設。



学生食堂（CANTEEN RARA・14号館） 約1000席を配した学生食堂の壁面には、工学系学部の学生の手によって円周率が描かれている。

## 東京都市大学 横浜キャンパス



図書館・情報基盤センター(2号館・左)と講義・研究棟(3号館・右)  
横浜キャンパスは1998年10月、国内の教育機関で初めて、ISO14001  
の認証を取得した環境重視のエコ・キャンパス。



ミニプレラボ(3号館) 高度なマルチメディア環境を実現し、3次  
元音場技術による空間の快適性を追求した実践型施設。

## 東京都市大学 等々力キャンパス



図書館(3号館) 1984年10月竣工。学部、学科に関する専門図書や  
実用書など約17万冊を配架し、学習や研究の場として活用している。



学生ラウンジ(3号館) 就職関連資料や雑誌などを自由に閲覧でき  
る寛ぎのスペース。傍らには学生支援センター、キャリア支援セン  
ターがあり、学生からの相談に対応している。

## 東京都市大学 原子力研究所



1960年開設。現在は原子力安全工学科や早稲田大学との共同大学  
院での、原子力・放射線実験実習施設として活用。

## 東京都市大学 総合研究所



2004年開設。企業や他大学、海外の研究機関との共同研究を推進し、  
それら研究成果を社会に還元。

## 東京都市大学附属中学校・高等学校



中学校1956年、高校1951年開設。中高6ヶ年一貫教育により、生徒の未来創造をサポート。豊富な知識と教養、国際性を備えた「人間力」の育成に力を注ぐ。

## 東京都市大学等々力中学校・高等学校



中学校1947年、高校1948年開設。「ノブレス・オブリージュ（高潔な若人が果たすべき責任と義務）」「グローバルリーダーの育成」という独自の理念に基づき、生徒の学力向上と人格形成を図る。

## 東京都市大学塩尻高等学校



1956年開設。大学教授の出張授業や研究指導、東京都市大学の単位を修得できる高大連携事業等生徒一人ひとりの学習への可能性を高める学習システムを構築。野球部、女子バレーボール部、サッカー部などが全国大会に出場し活躍。

## 東京都市大学附属小学校



1956年開設。低学年では「体で学ぶ」、中学年は「共に学ぶ」、高学年は「自ら学ぶ」をコンセプトとして、ミクニレッスンはじめ60プログラムに及ぶ体験授業、英語授業、習熟度に応じた算数授業を行う。

## 東京都市大学二子幼稚園



1955年開設。人格形成の基礎となる幼児期に、日常の遊びの中から豊かな情操と集団への適応性を育てている。また、心身ともに健康で自主的な生活態度を養い、将来の良き社会人育成を目指す。

## 東京都市大学 総合グラウンド



大学から幼稚園までの学生・生徒・児童・園児たちが、健康と体力の増進と、様々な教育活動を展開するなど、学校生活の充実を図る場として2010年に開設。シャトルバスを運行。

## 八ヶ岳山荘



東京都市大学グループの教職員および学生・生徒等が、勉強やクラブの合宿、研修場所として利用できる山梨県清里高原にあるオールシーズン型の宿泊施設。

## 東急自動車学校



1955年設立。2009年12月から東京都多摩市唐木田に移転し開業。

## 五島育英会ビル（法人本部）



JR渋谷駅西口から徒歩5分という利便性を備えた都心型のオフィスビル。

## 東京都市大学 渋谷サテライトクラス



東京都市大学と早稲田大学による共同大学院「共同原子力専攻」（2010年4月開設）の教育・研究開発の拠点として利用。

## トピックス

### 東京都市大学塩尻高等学校野球部 2011年夏・甲子園初出場



第93回全国高校野球選手権長野大会の決勝戦において、松商学園高等学校に延長13回の末、7対6で勝利し初優勝。念願の甲子園出場を果たした。



甲子園での試合当日は、生徒教職員538名がバス16台に分乗して駆け付けたほか、都市大グループの各校の生徒や教職員も甲子園に集結。グループカラーの水色に染まった1塁側アルプススタンドが一丸となって、熱いエールを送った。

東京都市大学塩尻高等学校 女子バレーボール部  
2013年新春・春の高校バレー ベスト16入り



2012年、2013年の春の高校バレー（全日本バレーボール高等学校選手権大会）に2年連続出場。2013年大会では男女106校の代表として、松尾奈津子主将が力強く選手宣誓を行った。戦績も創部4年目にしてベスト16入りを果たすなど大きな躍進を遂げた。また、さくらバレー（全国私立高等学校男女バレーボール選手権大会）では、第17・18回の2年連続で全国大会を制覇した。

東京都市大学等々力中学校・高等学校 舞チア部  
2012年春・全国大会初優勝



2012年3月に行われたチアリーディングダンスの全国大会「USA National in Japan 2012」に出場し、チアリーディング部門高校レベル4、5編成で初優勝に輝いた。また、同大会ではベストチアアップ賞も受賞する活躍を見せた。

## 東京都市大学学園歌

夢に翼を

作詞・作曲

岩代浩一

編曲

岩代太郎

1.

まなびや  
学園の道の 陽を浴びて  
精気さやかな 都市に起つ  
未来をみざす 心意気  
不滅の精神を学ぶなり  
香る個性の煌きに  
明日の英知を磨き合う  
双手に燃える青春の  
夢に翼を 夢に翼を

2.

まなびや  
学園の大地に 風わたり  
天空蒼々と 冴えるとき  
阿吽の息吹 朋友の声  
讃歌たからかに ひびくなり  
若き生命の羽ばたきに  
明日の希望を語り合う  
力あふれる青春の  
夢に翼を 夢に翼を

3.

まなびや つど  
学園の森に 集い来て  
こずえ さ こたち  
梢するどく 指す木立  
遥かに仰ぐ おおぞら 大宙の  
北斗に真理の光あり  
古き伝統の温もりを  
明日に生かして励み合う  
血潮みなぎる青春の  
夢に翼を 夢に翼を

作詞・作曲 岩代浩一先生からのメッセージ



たとえ老人になっても、夢に生きている人は新鮮に輝いています。本当の「老（おい）」は夢が失くなってしまった時と言えましょう。

憶えば子供の頃は、些細なことでも新鮮な出来事に出会うと、ドキッと反応して感動したものでした。だから、「子供ごころ」は何時も夢でイッパイでした。少年期から青春時代にかけての夢になると、将来への希望が多くなってきます。「夢多き時代」には若い命が逞しく息吹き、夢を見るほどに血潮が滾ってきます。

しかし夢は必ずしも実現するとは限りません。いや、むしろ叶わぬ夢の方がずっと多いでしょう。夢を実現する為には、ただ憧れているだけでなく、強い翼を育てることが肝要です。夢の翼は、個性であり、創造への英知であり、ロマンへの情熱であり、未来へ飛翔する不滅の力（真の勇氣）です。本当の夢は目を覚ましてみるもの。夢に翼を！